

平成29年度東京都立松が谷高等学校学校経営報告

3 今年度の取組目標と自己評価

I 教育活動の目標と方策

(1) 教育課程の検討

- ・平成29年7月に示された文部科学省「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）のポイント」や平成29年1月の「高大接続改革の動向について」や「次期高等学校指導要領に向けた取組の推進について」などの資料をもとに、高大接続改革の動きも踏まえながら、次期学習指導要領の改訂に向けた教育課程の検討を行った。

(2) 学力の向上について

- ・1、2学年で英語プラス1教科（文系は国語、理系は数学）の基礎学力を固め、一般受験で希望する進路を実現できる学力を身につけさせるために、宿題や小テスト、週末課題など、生徒の自宅学習時間を増やすための取組みを行った。その結果、進研模試データによる英国歴史の文系受験科目での他校比較では、生徒の学力の伸びは顕著であった。
- ・アクティブ・ラーニング推進校として年3回の校内研修会を実施した。1回目は外部講師による「時代が求めるアクティブ・ラーニングとは」をテーマに研修会を実施した。2回目はアクティブ・ラーニングの視点での授業研究を実施し、大学教授による指導・助言を得た。3回目は新聞社の講師を招き、授業において、的確な発問をすることで、生徒に発展的な回答を促すことができる「ハテナソン」（ハテナ+マラソンという造語）の講義を実施した。

(3) 外国語の確実な習得について

- ・英語教育推進校として、タブレットの活用によるGTEC Speaking Testを12月に実施し、GTECの活用による生徒の英語の4技能の着実な向上を図った。
- ・英語教育推進のために、図書館の英語多読図書を活用を推進した。また外国語コースの授業で、英語版ビブリオバトル（書評合戦）を2月に実施し、普通科の生徒に対しても英語多読図書の活用を推奨した。
- ・夏季休業日中に希望者によるイングリッシュサマーキャンプを福島県のブリティッシュヒルズにて実施した。
- ・1、2年生全員を対象に12月にGTEC for studentsを実施した。生徒の英語力の伸長について、次年度にデータの蓄積及び分析を行い、その後の指導に活用する。
- ・希望者に実用英語技能検定を実施した。生徒への受検案内を工夫した結果、受験者は昨年度より準2級で5倍、2級で約4倍増となった。受験者の増加と共に合格者も増加した。1次試験前にはe-ラーニングによる指導、2次試験前には面接指導を行った結果、2次試験は準2級は93%、2級は92%の合格率になった
- ・次世代リーダーに12名が受検、うち5名が合格し留学した。

(4) 入学者選抜の着実な実施について

- ・1月の推薦に基づく入学者選抜の応募人員報告から3月の各中学校への本人得点開示の発送まで、すべての段階で複数体制で原本確認することを徹底した。
- ・採点業務については、前年度の課題を洗い出し入選及び採点要綱を確認しながら進行的な実施を行った。

(5) 規範意識の向上について

- ・落ち着いた学習環境、安心かつ安全に学べる環境を維持するために、生活指導部を中心に、生活指導統一基準の全体計画に沿って、日常的に生活指導を行った結果、年間を通じて学習

環境に関する苦情は聞かれなかった。

- ①交通ルールの遵守、②挨拶の励行、③頭髮・身だしなみ等に関する校則の遵守、④時間厳守、⑤チャイム着席等の授業規律の確立という5つの目標の達成に向けた指導を組織的に行い、生徒の規範意識を育成した。特に挨拶については、始業式等でも繰り返し徹底し、活発になった。近隣住民からもお褒めの言葉をいただき、評判が上がっている。②から⑤については、ほぼ達成できたが、①については1学期に自転車通学に慣れていない1学年生徒が登校中に転んだり、自動車と接触しそうになった。
 - 通学時の事故を未然に防ぐため、登校時間帯には生活指導部が通学路のパトロールを実施した。
 - 薬物乱用防止についての指導を行うとともに、インターネット、携帯等の正しい利用に関する指導も強化し、ネット犯罪の被害・加害とネットいじめ問題等の防止を図った。
- (6) 希望進路の実現について
- 入学時からキャリア教育プログラム、進路指導計画に沿って、進路指導部を中心に、全学年が統一感を持った計画的、組織的な進路指導を行った。
 - 「人間と社会」について、昨年度の課題を整理し、学年担任や保健部等と連携して内容を検討した。仕事クラブ、宿泊防災訓練時の救急訓練や水道局と連携した応急給水訓練、地域清掃などで、就労体験や奉仕活動を行った。
 - 教員による進路指導・進路相談の充実を図るため、模試データ等の指導資料をシステム化し、データに基づいた進路指導を定着させた。さらにデータの精度を高めるために3年の6月にも模試を実施した。同時に大学・短大進学希望以外の生徒に対しても同日に充実したプログラムを実施した。
 - 今年度の大学入試は、都内の大学の入学定員が厳格化されたため、順に他の大学にも影響を及ぼし、非常に厳しい結果に終わった。MARCHは前年度と同様の人数が合格したが、日東駒専の合格者が減少した。
- (7) 意欲ある受検生の確保について
- 私立高校授業料無償化に伴い、応募倍率が減少したり、私大付属高校の倍率が上昇したりする傾向にある中、外国語コースについて、英語科と連携し、受検生に適切な情報を提供した。外国語コース説明会は、今年度も英会話以外にも映画聴き取りや英語多読など、本校の外国語コース教育の特色が十分に伝わる内容にして、学校説明会と一体化し、全校体制で開催した。3学年有志生徒のスキッドによる外国語コースの紹介も好評だった。また全体としても、学校見学会、説明会などで、その時々学習の仕方などを具体的にアドバイスした。その結果、入選倍率は普通科1.51倍、外国語コースは1.50倍になった。今年度は夏の学校見学会に2,567名、秋の学校説明会には1,173名もの中学生、保護者が来校した。
- (8) 中途退学の未然防止について
- 生徒、保護者の悩みに対応するため、教職員がスクールカウンセラーとの連携を密にして教育相談を実施した。教育相談委員会を中心に、いじめや不登校の予兆の早期把握に努めた。そのため中途退学者は一人も出なかった。
 - いじめ防止対策推進法の趣旨に沿って、校内体制を整備し、いじめに関するアンケート調査を各学期1回ずつ年3回実施して、早期対応を心がけた。いじめに関する事案が発見された場合、いじめ防止対策委員会を中心に、管理職、学年、生活指導部、保健部及びスクールカウンセラー等が連携し、早期に対応、早期に解決することに努めた。
- (9) 環境・健康教育と防災教育の充実について
- 学習に適した環境を維持するために、ごみの分別指導について保健部が主導して環境委員を中心とした指導を継続し、ほぼ徹底できた。

- ・環境に関する意識を高めるために、全校体制で省エネに取り組んだ。
 - ・安全・安心な学校づくりのために、安全教育、防災教育の充実を図る。セーフティ教室を全学年対象に実施するとともに、宿泊を伴う防災訓練も含め、年4回避難訓練を実施した。
- (10) 部活動の充実と体力の向上について
- ・部活動を推進するために、部活動の加入率をさらに上げる工夫をし、部活動加入率は84%の高水準を維持した。今年度は陸上競技部がインターハイに進出し、アーチェリー部も全国選抜大会に出場するなど躍進が著しかった。
 - ・部活動指導の方法を点検し、徹底して体罰の根絶を図った。
- (11) オリンピック・パラリンピック教育と国際理解教育の充実について
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催時に、英語力を活かしたボランティア活動に参加できるような生徒の能力と態度を育成した。
 - ・9月にオリンピック教育講演会を実施した。
 - ・国際理解教育推進のため、本校の卒業生、留学経験者などによる講演会を開催した。
- (12) 思いやりのある心の育成について
- ・思いやりのある心の育成のために、学年担任と進路指導部、保健部等が連携し、新教科「人間と社会」の指導計画を策定し、価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する学習及び体験活動等を通して道徳性を養った。
 - ・学校設定科目「交流体験学習」を設置し、学修を実施した。
 - ・地域連携事業を積極的に行い、生徒の社会貢献意識を涵養する機会を増やした。

II 経営企画室の取組目標と自己評価

(1) 経営企画室の経営参画の推進

- ・年度当初に経営参画ガイドラインを確認し、経営企画室と教員との連携を強めて学校全体としての共通理解をもち、経営企画室の経営参画を推進して、各課題の解決を図った。
- ・意欲ある受検生を確保するために、教務・総務部が所管する募集広報活動に企画段階から関与し、費用対効果の観点及び内容のわかりやすさ等、都民目線での提言を行った。
- ・1月の推薦に基づく入学者選抜の出願受付から3月の新入生書類受領まで、すべての段階で教員と連携し複数体制で確認することを徹底した。
- ・生徒の生命、身体に関わる事故を未然に防止するため、教員と連携しながら施設、設備の点検を日常的に実施し、速やかな対応を行った。

III 数値目標の達成状況

内 容	目 標	結 果	備 考
学校評価アンケート 授業満足度	90%	89.6%	学校評価における生徒の肯定的割合（前年度88%）
GTEC for students	10名	未	（前年度1名）
中堅私大の合格者数	50名	23名	日本・東洋・駒沢・専修の合計合格者（前年度43名）
学校評価アンケート 部活動満足度	80%	76%	学校評価における生徒の肯定的割合（前年度76%）
部活動加入率	85%	84%	部活動加入状況調査の報告時 前年度83%
学校見学会、説明会 参加者数	4000名	3873名	見学会、説明会、入学相談会の 合計（前年度3535名）

長期休業中の講座数と講習・補習の参加人数	40 講座以上 600 名以上	32 講座 563 名	(前年度 32 講座 556 名)
自宅学習時間(授業以外で自習する)の確保	毎日 1 時間以上を 40%以上	1 年 15% 2 年 27%	前年度 1 年 14% 2 年 23%
イギリス・サマキャンプ、海外の修学旅行生誘致による英語体験活動の満足度	80%以上	73.6%	
学校評価における本校満足度	90%以上	89.6%	(前年度 88%)
読書の推進 ビブリオバトル含む読書の意欲	生徒の肯定的評価 40%以上	35.2%	(前年度 36.7%)
英語検定 2 級、準 2 級取得者数	2 級 15 名以上 準 2 級 40 名以上	2 級 20 名 準 2 級 36 名	前年度 2 級 13 名 準 2 級 26 名